

く
に
み
語
り

国見町、それはみちのくの古跡のほとり

あつかし山の美しい山なみを背景に

あぶくま川の清い流れにうるおう景勝の地。

いにしえから語り継がれるこの地の歴史や文化を

未来永劫にわたって伝え知ってほしい。

それが「くにみ語り」です。

歴史

縄文・弥生・古墳・飛鳥・奈良時代

国見町周辺では、一万年以上も前から人々が暮らしていました。弥生時代には農耕が始まり、地域を支配する豪族が現れ、やがて古墳時代が到来します。福島県内でも有数の古墳地帯で、塚野目地区をはじめ、森山・大木戸地区などに古墳群が見られます。

古代、この地方は伊達郷といわれ、8世紀ごろには東北地方でも有数の開田が発展し、大木戸窯跡では須恵器が製造されています。

奈良時代には、壮大な伽藍を有したといわれる徳江廃寺が創建され、旋回花紋や蓮華文軒丸瓦などが出土しています。また、山居遺跡では、製鉄が行われていたことも明らかになっています。

平安・鎌倉・室町時代

平安時代末期の文治5年（1189）に、この地で繰り広げられた阿津賀志山の戦いは、源頼朝率いる鎌倉軍と藤原泰衡率いる奥州軍との戦いの中でも最大の攻防戦で、政治の中枢が公家から武家へ移る契機となった戦いでもあります。鎌倉軍を迎え撃つために奥州藤原軍が築いた阿津賀志山防塁（通称：二重堀）は、阿津賀志山の中腹から阿武隈川までの約3キロメートルにわたる要塞施設でした。元寇防塁（福岡市）や水城防塁（太宰府）と並び日本三大防塁の一つです。この戦いで戦功のあった中村朝宗はこの地を賜り、伊達氏と称し、後の伊達政依は光明寺など伊達五山を建立しました。（伊達政宗は17代目にあたる）徳治3年（1308）には、帰化僧「寧一山」による石母田供養石塔が建立されました。さらに鎌倉時代から室町時代にかけて、伊達氏の家臣たちによって、森山館や石母田城などが構築されています。

塚野目古墳

古墳時代中期の帆立貝型の前方後円墳で、周濠が巡らされていた。大型の朝顔型円筒埴輪が出土している。近辺に祭司遺構である矢ノ日遺跡がある。

須恵器

日本で古墳時代から平安時代まで生産された陶質土器（炆器）の総称。

施回花紋

花の文様が施された陶器。

蓮華文軒丸瓦

蓮の文様の施された軒先に用いる丸瓦。蓮花紋や巴紋ともえもんをつけることが多い。

安土桃山・江戸時代

戦国時代、安土桃山時代を経て、寛文4年（1664）、この地域は上杉氏の支配下に置かれ、以降幾多の藩支配の変遷を繰り返しながら、明治維新を迎えます。この間、西根上堰が開さくされて水田開発や農業の技術革新が進み、奥州街道・羽州街道の宿として藤田、貝田、小坂の宿がにぎわいました。芭蕉も「奥の細道」の中で、「路縦横に踏んで伊達の大木戸を越す」と記しています。

徳江河岸では江戸への御城米の積み出しが盛んに行われるとともに、江戸末期には日本三大銀山の一つ「半田銀山」も活況を呈しました。ここで開発された技術に「ハンダ付け」があります。

寛延2年（1749）、桑折代官の暴政に反発した農民たちが信達大一揆を起こし、慶応2年（1866）には信達両郡でも物価の引き下げを要求して世直し一揆が起こり、打ち壊しが行われました。

明治維新以降

明治政府の廃藩置県によって、現在の国見町は福島県の管轄になります。明治6年には泉田小学校（現・泉秀寺）が開校。20年（1887）には上野・塩釜間に鉄道が開通し、33年（1900）には藤田駅が設けられました。また、22年（1889）には市町村制が施行され、小坂村、藤田村、森江野村、大木戸村、大枝村の基が形成されました。

大正4年（1915）に、藤田村は町制を施行して藤田町となり、昭和29年（1954）には、昭和の町村大合併によって小坂村、藤田町、森江野村、大木戸村そして大枝村が合併して国見町となり、現在にいたります。町名は、「国を見るかす町」との意味が込められています。

信達大一揆

江戸時代、陸奥国信夫（しのぶ）・伊達両郡（福島市周辺）で起こった百姓一揆。有名な一揆で朝日新聞に連載され、映画化もされている。

泉田小学校

当時の泉秀寺本堂を泉田小学校の仮校舎として使用していた。当町の学校教育発祥の地である。

光、水、土…

国見町の農産物がおいしい理由

生さるものすべてに、

分け隔てなく降り注ぐ光。

自然の大きな循環の中で

浄化された水。滋味あふれる土。

一万年前から続く人の営みを

支えてきた摂理が、

この町では大切にされています。



一粒の種を芽吹かせ、
花開かせ、結実させる。
私たちは自然の『力』を糧に、
命を紡いできました。
人の英知を超えた
「不思議」によって、
生み出される米、
野菜、くだもの、木の実…。
私たちの宝ものです。
その源が、光と水と土…。



恵み

米

日本の食の基本。おいしい「ごはん」食べてますか。

国見の土、水、光…。自然の恩恵と農家の愛情、知恵が育むお米たち。精米された一粒ひとつぶは、白いメノウのよう…。さあ、おいしいごはん、召し上がれ。

桃

夏から秋まで、多彩な品ぞろえ。きつと高級「水菓子」です。

かつて養蚕が盛んだった伊達地方。生糸価格の低迷から、モモへの大転換が図られたのは昭和40年代後半。今では全国の市町村中9位、町の部1位の出荷量を誇ります。果肉は固めですが、たっぷりの甘さと香りが特徴です。

あんぽ柿

江戸時代の知恵が今に。品の良い甘さは「上生菓子」

あんぽ柿の語源は、皮をむいて天日に干した江戸時代の「天干し柿あまほ」とも言われています。渋柿が、甘い柿へ変わる不思議。とろりとしたゼリーのような食感、上品な甘さは上生菓子そのものです。平成22年2月、福島県ブランド認証産品の第一号に選ばれました。

すもも

甘酸っぱい初夏の味…。味のバリエーション

明治時代に生産が始まったすもも。薄黄色や紅色の実にギュッと詰まった甘酸っぱさは、初夏の味…。9月に収穫される大きく甘い「秋姫」は、生産量が少なく、貴重な品種です。



さくららんぼ 国見の“旬”は桜桃（さくらんぼ）から始まります。

春、国見の厳しい冬を越した果樹たちは、一斉に花を咲かせます。生命の謳歌の後、一番に実を付けるのが、さくらんぼです。佐藤錦、紅秀峰……。さまざまな品種の中から、お好みのさくらんぼを見つけてください。

梨

さわやかな甘さとシャリつと軽やかな食感が特徴。

つややかな薄緑色と美しい形で、独特の酸味と甘さを併せ持つ二十世紀、みずみずしく甘い果汁となめらかな肉質を持つ豊水、生産量の半分近くを占める幸水……。初秋から出荷される梨は、国見の秋の定番フルーツです。

洋梨

気品あるクリーミーな食感が楽しめます。

洋酒のように芳醇な香りと、まろやかでとろけるような食感。

追熟が必要ですが、軸の回りをそっと触って、かすかに柔らかさを感じたら食べ頃です。グラマラスな容姿から醸し出される豊かで上品な甘味をお楽しみください。

りんご

盆地特有の気候が、赤く、甘く育てます。

日本での本格的な生産は、明治初期に政府が苗木を輸入し、奨励したのが始まりです。国見町でもりんご栽培の歴史は古く、モモへの改植が進んだとはいえ、38ヘクタールで栽培され、890トンが出荷されています。果汁たっぷりで優しい果肉、蜜の多さが特徴です。

蔬菜

「土」の栄養をいただく。豊味……。野菜、根菜たち

野菜や根菜たちを育てるのは、国見の豊かな土です。土が母親です。人は、野菜たちの成長を、ほんの少し手伝うだけです。

土の栄養をたっぷり吸収した野菜たちは、繊細な風味を身にまとい、私たちの前に現れます。



お惣菜とお菓子たち

佐久間商店

骨までホロリ。柔らかかく…。



さばの味噌煮は絶品。海から遠い国見町で、おいしいさばの味噌煮が作れるのは、元々魚屋だったから。魚をよく知っているから。味付けは味噌と砂糖のみ。それでいて繊細。女性店主ならではの技があります。客足が途切れない店内。加えてインターネットでの販売にも取り組み、全国から注文が舞い込みます。おいしさに感動したお客様から、礼状が届くこともしばしばです。



佐久間商店
国見町大字藤田字町尻二7
☎ 024 (585) 2153

樋口豆腐店



コク味たっぷりの豆乳でつくります。

豆腐づくりは、まだ町が眠っている早朝に始まります。季節によっても日々の気温や湿度によっても、作り方は微妙に変わります。職人としての長年の勘が求められる厳しい作業です。樋口豆腐店では、大豆本来の旨みとコクを出すために濃い豆乳をつくり、製品に仕上げています。子どもが生まれたばかりの4代目が、百年を超える店の歴史を引き継ぎます。特に、夏限定のざる豆腐が人気です。



樋口豆腐店

☎ 国見町大字藤田字堤下16-6
024 (585) 2033

樋口食品



「豆」にこだわりました。

大豆は北海道産の「上物」にこだわります。

先代、先々代から受け継いだ歴史と伝統に支えられた「味」は、多くの食通に愛されています。

作り手の正直さが直接伝わってくる「ひぐちの納豆」です。



樋口食品

☎ 国見町大字藤田字堤下16
024 (585) 2034

国見バーガー

さばの味噌煮とパン。合いますよ。



震災で大きな被害を受けた国見町。商工会の青年たちの「町のグルメを作っちゃおう」から始まった国見バーガー。思いついたのが、佐久間商店のさばの味噌煮と佐久間パン店のパンとのコラボレーション。試行錯誤を繰り返して、たどり着いたのがパンにさばの味噌煮を挟むというシンプルなもの。「さばの味噌煮のバーガー？」と怪訝な顔をする人も、一口食べると「不思議に合う」と。

国見バーガーの第2弾、地元のチキンカツを使ったチキンカツバーガーの販売も始まりました。



国見町商工会
国見町大字藤田字南20
☎ 024 (585) 2280

佐久間パン店

ケーキもおいしい、町のパン屋さん。



店の名前を聞いただけで、食感や香りがふわっと思い出されます。それだけ子どもものから親しんだ味です。食パン、黒糖コッペパン、ブランデーケーキ、ポンポコなどは店の定番商品。これらは初代が考案したのですが、2代目もしっかりと守り続けています。一生懸命に、当たり前のことを当たり前に続けることを大事に、歴史とともに培われた味は変えたくない、という2代目。大人になっても覚えていてもらえる「味」を持っているお店です。



佐久間パン店
国見町大字藤田字町尻二丁目
2422
☎024(585)2422

松屋菓子店

これが「羊羹」です。



町の老舗和菓子店です。北海道産の良質な小豆を使用し、手間をかけて練り上げる自家製の餡。親の代から長年愛用した道具と技法で、味を継承します。

おすすめは「阿津賀志羊羹」。本練、小倉、栗の3種。一棹ずつ竹皮を身にまとい、みなさんをお待ちしています。「和菓子屋の良し悪しは、羊羹でわかるもの。この羊羹は味に重みがあって、とてもおいしい」と、和菓子にうるさい人たちから好評をいただいています。



松屋菓子店
国見町大字藤田字南37
☎ 024 (585) 2063

さくま製菓

和菓子で季節を感じて。



うぐいす餅、桜餅、花見団子、柏餅、茶饅頭…。店頭には、季節を先取りした和菓子たちが並びます。

初夏限定の「がんづき」は、小麦粉と黒糖でつくる素朴な味わい。店頭に並べるとすぐに売り切れてしまいます

焼き饅頭の「義経公」は、四季を通して定番のお菓子。頼朝に追われた義経が、平泉に向かう途中、腰かけて休んだといわれる「義経の腰掛け松」の模様があしらわれています。

お客様の顔を見ながら、手から手へ渡したい…。さくま製菓のこだわりです。



さくま製菓

国見町大字森山字辻南1-3
☎024(585)2048

La4区

感性の洋菓子たち……。光るパティシエ。



店名のLa4区は、自分らしくの「らしく」。自分だけのオリジナルのお菓子をつくりたい、との思いが込められています。その思いが、生まれ育ったこの町で開店しようと決心した大きな理由です。

あふれる創造力ときめ細やかな手作業から生み出される洋菓子たちは、テーブルいっぱい繊細で華やかなテイストを振り撒きます。

震災後に開店したLa4区。夜遅くまで灯っている作業場の明かりは、復興を目指す私たちの光です。



La4区(ラヨンク)
国見町大字藤田字北63-1、1B
☎024(563)1972

文化財

国見町には、たくさん文化遺産や自然遺産があります。主な文化財について、その魅力を紹介します。

阿津賀志山防塁（通称：二重堀）

〔国指定史跡〕

文治5年（1189）、藤原泰衡率いる奥州軍と源頼朝率いる鎌倉軍が対峙した古戦場跡。全国の武士が動員された奥州合戦において、両軍数万人の軍勢が戦闘を行った最大の激戦地です。

阿津賀志山中腹から阿武隈川の旧氾濫原までの約3.2 kmには、奥州藤原氏が築いた堀と土塁からなる防衛ラインの一部が残り、東北に浄土を築いた藤原氏の滅亡と源氏による武士の世の幕開けとなった合戦を今に伝えます。場所：国見町大字石母田く大字大木戸く大字森山く大字西大枝地内 見学：自由

旧奥州道中国見峠長坂跡

〔町指定史跡〕

江戸と東北を結ぶ奥州道中の難所であった国見峠跡。松尾芭蕉も『奥の細道』にて、険しい峠道を「路縦横に踏んで」越えたことを記しています。長坂跡では約300 mにわたる街道跡が掘割状に残り、江戸時代の旅人が行き来した街道を感じることが出来ます。場所：国見町大字大木戸字長坂地内 見学：自由

旧羽州街道小坂峠

〔町指定史跡〕

宮城県白石市との境に位置する小坂峠（標高441 m）。戦国時代には伊達政宗の夫人「愛姫（めぐひめ）」が奥入れの際に越え、江戸時代には羽州諸藩の参勤交代や御城米（幕府直轄米）の輸送に用いられた重要な峠でした。現在は、「産坂（さんざか）」と呼ばれる峠道と幕末につくられた慶応新道が残り、当時の険しい峠越えを伺うことが出来ます。場所：国見町大字鳥取字峠下地内 見学：自由

奥山家住宅洋館・主屋

〔国登録有形文化財〕

大正10年（1921）に藤田の名望家であった奥山忠左衛門家の迎賓館として建設。ルネサンス様式をベースとした洋館は、石積みアーチや八角の塔屋・上げ下げ窓などの特徴を持つ石造建造物で、和風建築の主屋は建具に施された多くの彫り物が慶賀な空間をつくりだしています。

江戸時代以降、奥州・羽州両街道と阿武隈川舟運を結ぶ物流の結節点として機能した藤田宿で、豪商であり政治家でもあった奥山家と国見の近代化を象徴する建造物です。

場所：国見町大字藤田字北地内 見学：内部非公開 ※要問合せ



福島県国見町

〒969-1792 伊達郡国見町大字藤田字一丁田二 2-1

tel.024-585-2111 fax.024-585-2181

<http://www.town.kunimi.fukushima.jp>